

コムシスホールディングス株式会社様

業務品質向上を目指し基幹システムを全面更改 豊富なノウハウでシステム統合を早期実現

コムシスホールディングス株式会社では、グループ各社が共通でプロジェクトを管理できる新たな基幹システムを構築した。NTTデータは、財務管理および経営分析システムの構築を担当。SAPを利用して世界標準のビジネススタイルへと業務の変革を促すとともに、移行データが膨大に発生する年度途中のシステム移行を予定通り実現し業務の大幅な効率化や品質向上、コスト低減に貢献した。

さらなる品質向上やコスト低減を目指し グループ共通の基幹系システムを刷新

通信建設業界のトップ企業である日本コムシスと、三和エレック（現・サンワコムシスエンジニアリング）、および東日本システム建設の3社により、2003年9月に設立されたコムシスホールディングス株式会社（以下、コムシスホールディングス）。同社は持ち株会社としてグループ全体の戦略立案や経営判断を行い、各社が互いに連携しつつ、それぞれの分野や地域で培ってきた技術力を軸に、次世代ネットワーク（NGN）をはじめ新たなビジネス分野での事業拡大に積極的に取り組んでいる。



コムシスホールディングス株式会社
経営企画部 ITシステム企画部長
津田 博久氏

グループ共通の基幹系システムに関しては、従来、日本コムシスが導入していたプロジェクト管理システムに改良を重ねて、各社で利用してきた。しかし、既存システムは主に紙ベースで運用されているためリアルタイム性に欠けていた。また、以前に比べて受注案件の多くが多様化し、さらに、短期間での迅速な遂行が求められるなど、さまざまな課題が浮上してきたという。そこで同社は、システムの更改時期を迎える2008年を目標に基幹システムを全面的に刷新し、工事品質のさらなる向上、低コスト化の推進や内部統制の強化にも寄与する新社内システムの構築に取り組むこととなった。

SAPに精通したNTTデータのノウハウを 基に世界標準のやり方で業務改善を目指す

今回のシステム構築では、グループ共通のビジネス基盤を整備すると同時に、BPR（業務効率化）を積極的に推進し、社員の仕事のスタイルをビジネスの急速な進展に即応できるよう変革することも大きな目的のひとつだった。コムシスホールディングス株式会社 経営企画部 ITシステム企画部長の津田 博久氏は、「仕事のやり方、スタイルそのものも見直すという観点がないと、大幅な業務効率化は期待できません。ビジネススタイルを変えて、さらなる業務効率化を目指すのが第一義であり、そのための道具を用意する——それが今回の新システム構築の大きな目的です」と、新社内システム構築の真意について語る。

そこで、新社内システムの構築を数社のベンダーと共同で担当することとなったNTTデータでは、他社ベンダーおよびコムシスホールディングスと共同で、約3カ月もの期間をかけてシステムの要件定義を実施、コムシスホールディングスとしての経営方針およびBPRや内部統制に関するシステム要件を詳細に盛り込んでいった。

そして、NTTデータが開発を担当する財務管理／経営分析システムについては、ERPパッケージのSAPを採用し、財務管理や調達管理、経営分析のモジュールを導入した。「従来業務を世界標準のビジネススタイルにあわせて変革する」という方針のもと、帳票を吟味して減らしたり、必要なデータを抽出する機能で代用したりすることで開発アドオンを最小限にとどめ、業務側との調整作業を実施していった。

コムシスホールディングス株式会社

本社：東京都品川区東五反田2-17-1
設立：2003年9月29日
資本金：100億円
主要子会社：日本コムシス株式会社
サンワコムシスエンジニアリング株式会社
東日本システム建設株式会社
コムシス情報システム株式会社
コムシスシェアードサービス株式会社
事業概要：ワンストップソリューションプロバイダとして、情報通信工事事業、電気設備工事事業及び情報処理関連事業等を行う子会社の経営管理等
URL：http://www.comsys-hd.co.jp/

こうしたNTTデータの取り組みに対し津田氏は、「世界標準のSAPに仕事のやり方を合わせることで自体に大きな意義があります。SAPに精通しているNTTデータのノウハウやアドバイスが十分に生かされました」と評価する。

“ビッグバン”プロジェクトの成功を目指しマルチベンダー体制で開発を推進

今回の新社内システムの開発は、NTTデータが手がける財務管理／経営分析システムに加えて、グループ各社の社員が利用する案件管理システムをはじめ、施工系や人事系など、これまで約20種あった既存システムも見直しを図り、統合する大規模なものだった。

これら、案件管理システムおよび施工系や人事系のシステムについては、それぞれ別のベンダーが担当するという、3社によるマルチベンダー体制で開発に臨んだ。



コムシスホールディングス株式会社
経営企画部 ITシステム企画部門
担当部長 藤本 晴彦氏

コムシスホールディングス株式会社 経営企画部 ITシステム企画部門 担当部長

長の藤本 晴彦氏は、「ここまで大規模なシステムを開発して業務を大幅に刷新するのは、初めての試み。まさに“ビッグバン”プロジェクトと呼べるものであり、社内の開発チームに加えて、優秀なベンダーの協力が不可欠でした」と開発体制の経緯について語る。

NTTデータでは開発の早い段階から、他ベンダーと積極的に連携、短期間でのスムーズな構築を目指して、情報共有や意識合わせを図った。自ら担当する財務管理／経営分析システムの開発に万全を期すとともに、時には、担当範囲にとらわれることなくプロジェクト全体の推進に配慮しながら、システム開発を進めていった。

こうしたマルチベンダー体制による開発に関して、藤本氏は「新社内システムを成功させるという強い決意のもと、参加したすべてのベンダーが自社の強みを存分に発揮し、まさに一体となりました。長年にわたりシステム構築を手がけてきたNTTデータの開発姿勢には学ぶことも多く、大変参考になりました」と語る。

グループ同時のシステム導入に向けてプロジェクト一体となって移行に臨む

開発した新社内システムは、内部統制への早期対応などから、年度途中の更改が求められていた。そのため移行に際しては、進行中の案件の膨大なデータが存在することから、既存システムからの移行作業もまた今回のシステム構築全体の大きな課題だった。

新社内システムでは、1つひとつの工事に

関連するシステム上のさまざまなデータを、工事単位に横通しで管理している。そのため、工事に対して入力されたデータが財務管理システムに確実に反映されることはもちろん、システム移行の際には、年度途中で進行中の工事に関してもすべてのデータの整合性が図られなければならない。

そこでNTTデータでは、実際の移行作業の約半年前の2008年5月より、移行に向けた体制作りを進め、データ解析などの移行作業を先行して実施した。そして移行リハーサルを実施したところ、整合しないデータが頻発したことから、エラー解消に向けてプロジェクトメンバー全力で解決に取り組み、移行リハーサルも3回にわたって実施した。本番の移行作業を実施する際には、コムシホールディングスのもとのベンダー同士が協力し合い、問題発生時には対応策をその都度立て、解決する体制のもと移行作業を実施した。

こうした移行作業について、コムシホールディングス株式会社 経営企画部 ITシステム企画部門 担当部長の大西 裕氏は、「既存システムの使用期間が長いこともあり、システムは複雑化し、イレギュラーな状態でデータが存在していました。稼働開始直前の約1週間は、24時間体制で取り組むなど、グループ3社の同時移行作業は困難を極めましたが、

NTTデータをはじめとするベンダーの協力を得て無事に乗り切ることができました」と振り返る。

新社内システムにより業務も大幅効率化 組織追加やシステム変更も柔軟に

システム開発および、その後の移行作業を経て、2008年10月に予定通り新社内システムは稼働を開始した。グループ各社のさまざまな業務において効率化が実現しており、作業時間の減少など具体的な数値として成果が表れるなど、システム更改による確実な投資効果が出ているという。

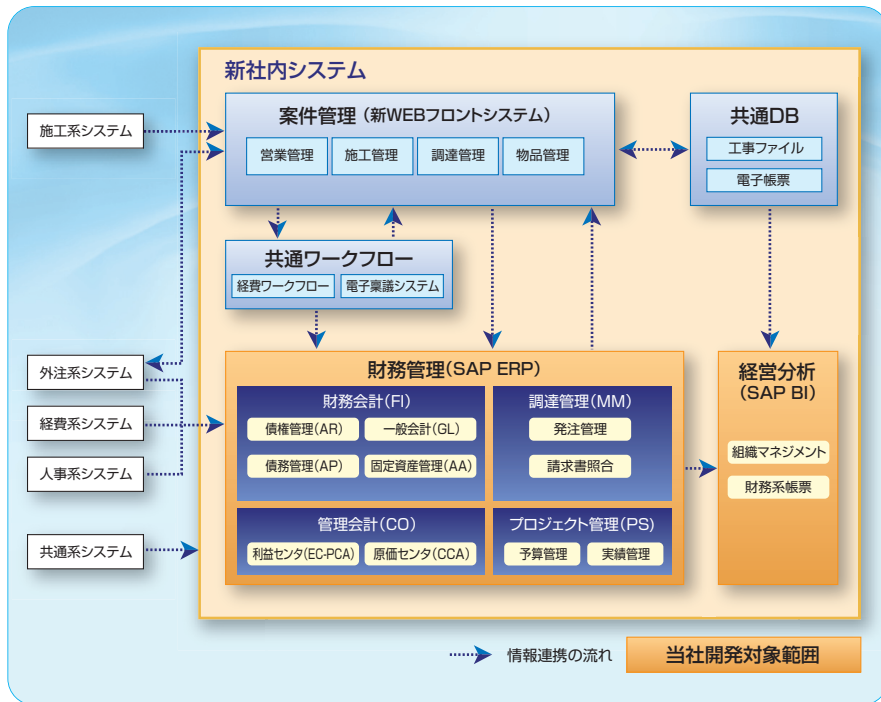


コムシホールディングス株式会社 経営企画部 ITシステム企画部門 担当部長 大西 裕氏

新社内システムの稼働開始後も、工事進行基準などの法制度変更や組織変更、4社目となる新会社の追加統合といった追加要求が相次いで発生したが、新システムは柔軟に対応することができた。また、財務管理／経営分析システムの多岐にわたるSAP／BIモジュールの導入により、経営に必要な情報をリアルタイムに把握できる仕組みが実現されている。なお、ハードウェアに関しては、サーバの仮想化を図っており、リソース共有化が実現している。また、営業支援・施工管理システムに関して、NTTデータグループのイントラネットをプラットフォームとして採用しており、今後の多様な開発要求にも柔軟に対応できる体制が整っているという。

「組織追加やシステム変更迅速かつスムーズに対応できており、新社内システムの柔軟性を高く評価しています。さらなる業務改善に向けて、SAPを存分に活用したいです。NTTデータの今後のサポートに期待しています」と、大西氏も期待を寄せる。

コムシホールディングスでは、新社内システムを活用してさらなる業務効率化を推進、通信建設工事の品質向上やコスト低減につなげたい考えだ。NTTデータでは、これからも先進ソリューションの提案やシステム構築を通じて、コムシホールディングスのビジネスを積極的にサポートしていく。



株式会社NTTデータ

製造ビジネス事業本部
 ビジネス企画部 第二統括部 第二統括担当
 TEL.050-5546-8338
<http://www.nttdata.co.jp/services/casestudy/> (お客様事例)